



個性が光る

# 東北の灯台



2023年の11月1日で灯台記念日は155回を迎えた。資源に乏しい島国日本にとって、灯台は海外から物資を輸入するための船舶が航海する上で欠かせない存在となっているだけでなく、航路標識のほかにも地域のシンボルや観光資源としても注目されている。東北地方には375基の灯台があり、その中で歴史が古い灯台やデザイン灯台、復興のシンボルになっている灯台など、各県の灯台をピックアップした。

## 青森港新北防波堤西灯台

青森市

かわいらしくペイントされた円錐形の灯台



県都・青森市の青森港は、東側が下北半島、西側が津軽半島に囲まれた内湾の奥に位置し、市街地のすぐ近くにあることから、古くは北海道と青森市をつなぐ青函連絡船、昨今は大型のクルーズ客船など多くの船が寄港する港として知られている。1961年11月1日の初点灯以来、その安全を見守ってきたのが青森港新北防波堤西灯台だ。

現在のデザインになったのは、今から20年ほど前。当初はオーソドックスな白色の灯台形だったが、北防波堤の整備に伴い景観にマッチする灯台として改築されることとなり、青森市の南側にそびえる名峰・八甲田山をイメージした円錐形の灯台となった。構造はコンクリート、塔高は12m、灯高は13m。灯台近くにある青森市のランドマークの一つ、青森県観光物産館「アスパム」も三角形の建物で、よく似ていることから、地域の人々に「アスパム灯台」と呼ばれ親しまれてきた。

また、2021年7月には、同灯台を観光振興に活かそ



灯台から見た市街地。左にある三角形の建物が「アスパム」

デザインは名峰・八甲田山をイメージ  
人が集う青森港の新観光スポット

うという試みから、NPO法人を中心に行政や市民が一体となり、「あおりアスパム灯台ポスト事業」を開始した。同事業では、灯台が航路標識の役割だけではなく、人が集うスポットになることを期待し、灯台正面に郵便ポストを設置した。この郵便ポストには、灯台の通路をくぐり抜けて手紙やはがきを投函すると、願いを灯台が飲み込んでくれるというストーリーが込められていた。そして、そのストーリーを基に、地元デザイナーが同灯台の表面に、水をイメージしたペイントを施した。パステルカラーで彩られ、一段と可愛らしくなった灯台は、大人から子どもまで大好評となった。

現在、ポストは撤去されているが「灯台ポスト」として話題となった同灯台は、事業開始から1周年を迎えるに当たり愛称を公募。アスパム灯台から取って『あすびい』と命名された。

2023年7月21日には、事業の一環として、同灯台がある新中央埠頭を会場に行われた「青森安瀉みなとまつり」で、一夜限りのライトアップイベントが開催され、訪れた多くの人々を魅了していた。

今後も青森市の新たな観光スポットとして期待が高まるばかりだ。



## 大槌港灯台

岩手県大槌町



東日本大震災の津波により倒壊したものの、町民のデザイン案を基に2012年に再建した高さ11.47m、赤色の大槌港灯台。デザインは、震災の犠牲者への祈りを込めたろうそく型。町および復興のシンボルとして、町民の心の拠り所となっている。

灯台があるのは、大槌港に浮かぶ周囲約200mの「蓬莱島」(ほうらいじま)。大小2つの円形の丘が連結し、ひょうたんのような形をしていることから「ひょうたん島」として親しまれ、NHK人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルの一つと言われている。

地震の際、ひょうたん島にあるお堂は流失を免れたが灯台は倒壊。再建に当たって管理を担う釜石海上保安部が大槌町と協力してデザインを募集し、266作品の中から町在住の岩間みな子さんの案が採用された。ろうそくのコレクションが趣味の岩間さんは、町のインフラが停止した震災時、近所の人にろうそくを配り利用してもらったエピソードからイメージを膨らませた。ろうそくの本体部分は「時がたてば必ず復興できる」という意味の砂時計、炎の部分は「町の未来を明るくしたい」という思いから太陽をモチーフとした。「世界一美しい灯台として大槌の誇りの一つになってほしい」という願いが込められている。

昨年は初代から数え、70周年を迎えた大槌港灯台の節目を記念し、釜石海上保安部が町の小中学生を対象に灯台を題材とした絵画コンテストを開催。184作品から5作品を選び町文化交流センター「おしゃっち」に展示し、11月4日には表彰式が行われた。平野公三町長は灯台再建を含めた復興の歩みを振り返るとともに、「絵画一つ一つに個性があり、一生懸命に絵筆を動かす姿が目に見え感動した」と述べ、将来を担う児童生徒が復興のシンボルを描いてくれたことに感謝。虻川浩介釜石海上保安部長は「町、そして復興のシンボルとして地域に親しまれていくよう今後も管理に努めていく」と決意を新たにされた。

町民がデザインした復興のシンボル  
祈りを込めたろうそく型の赤い灯台

大槌港に浮かぶ蓬莱島

秋田県男鹿市

## 入道埼灯台

## 東北に3基の登れる灯台の一つ

日本海に突き出る男鹿市の男鹿半島北西端に建つ入道埼灯台は、1898年(明治31年)11月8日に初代の施設が初点灯した。当時、秋田・山形県にはそれぞれ船川灯台と酒田灯台の2基の木造灯台しかなく、入道埼は沖合に南から対馬海流、北からリマン海流が流れ込み、周囲は岩礁が多く海流が複雑で海難事故が絶えず、待望の施設だった。

初代の灯台は高さ28.89m、光の届く範囲20海里(約37km)の白色塗六角形鉄造。老朽化から戦後に改築されたが、終戦直後の資材不足で5年の歳月を要し、1951年(昭和26年)6月8日に現在の白色塔型鉄筋コンクリート造りの姿に生まれ変わった。

現施設は北緯40度00分18秒、東経139度42分06秒に位置し、地上から頂部までの高さは27.92m、灯火までは24.2m、水面上から灯火までは57m。光の届く範囲は初代と同じ20海里(約37km)。72年に無人化した。

全国に16基、東北に3基ある一般客が登れる灯台の一つで、115段のらせん階段を上ると灯器やレンズのある灯室を見学できる。室内は狭く、回転レンズは下部しか見られないが、らせん型の溝が刻まれた太い軸や黒色のレンズ基部にはどっしりとした印象を受ける。一方、付近を照らす照射灯は床面にあるため背部が見える。外部の回廊に出ると、雄大な日本海を一望でき、



灯室内の照射灯。付近の危険な岩礁を照らす



外観。縞模様なのは雪が多い北日本ならではの

眺望を楽しむ展望台としても親しまれている。

灯台の横には資料展示室が設置され、写真や各種展示パネルが展示されているほか、男鹿市の観光情報も紹介。各種の設備も保管されており、青森県の鱸作崎(へなしさき)灯台で97年まで使用されていた3等大型フレネルレンズ、愛知県の伊勢湾灯標で同じく97年まで稼働していた90cm回転式ビーコンなど、通常は近くで見られない貴重な機器もあり、灯台について多面的に知ることができる。



展示室にあるレンズ。入道埼灯台のレンズとほぼ同じ大きさ

## 資料展示室には貴重な機器も



## 日和山公園・六角灯台

山形県酒田市



山形県酒田市の日和山公園は、高台から港町と日本海を見下ろせる眺望スポットだ。その公園に、山形県指定有形文化財の六角灯台が明治時代と変わらない美しい姿でたたずんでいる。

六角灯台は文字通り塔身・塔屋ともに正六角形をしており、大工として酒田市内の相馬樓や宇八楼(山王くらぶ)など、後に登録有形文化財となった建物を多く手掛けた佐藤泰太郎が棟梁となり1895年に建設された。W造高さ12.83m、延べ47.20㎡で、現存するW造六角灯台では日本最古級。明治期の西洋建築を採り入れたモダンな外観は人気を集め、夕焼け時には『日本の夕陽100選』に選出された雄大な日本海への日没とセットで写真撮影できる。

1958年に灯台としての役割を終え取り壊される予定だったが、建築的価値を重んじた町内会連合会が募金活動を行い、これを受けた市が集まった募金等で日和山公園へシンボルとして移設した。現在は県指定文化財としてほぼ5年おきに改修を行っており、改修時に市がクラウドファンディングを実施し一般から費用が集まるなど「みんなで守る」灯台として愛されている。

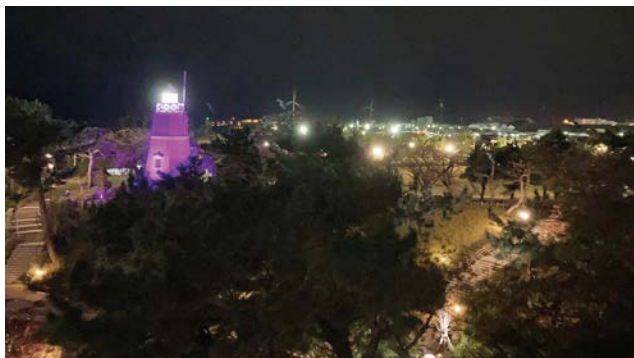
夜間ライトアップは90年から行われ、当初は祭日の演出として点灯していたが、2020年にLED灯に更新してからは公共団体からの依頼で多彩なカラーライトアップが行われ、来園者を感嘆させている。主なものでは児童虐待防止月間(オレンジ)、国際女性デー(イエロー)、臓器移植普及推進月間(グリーン)などが恒例企画となった。さらに新型コロナウイルス感染拡大時は医療従事者への感謝を



灯台と夕陽(市提供)

表すブルーに、東京2020オリンピック聖火リレーでは五輪色を色ごと6秒間隔でフェードイン・アウトし、ウクライナ人道危機救援では六角形を同国旗のブルー・イエローで照らし分けて演出するなど現代の世界情勢とも歩み続ける。

六角灯台を管轄する市整備課は、市広報やウェブサイトなどでライトアップを告知し、多くの市民に愛されるスポットとして活用していく。



夜間ライトアップされた灯台(市提供)。眼下に港町の明かりが広がる

## 市民に愛される木造洋風灯台

## 金華山灯台

宮城県石巻市



## 150年の歴史を持つ東北最古の石造灯台

宮城県石巻市の牡鹿半島の先端から1km沖合に浮かぶ金華山の南に位置する金華山(きんかさん)灯台は、1874年に着工、76年に竣工・初点灯し、2026年に点灯150年を迎える。構造は石造(花崗岩)の塔形で、石造の灯台としては東北地方で最も古い。高さは13m、20秒ごとに発せられる白と赤の光は、それぞれ沖合い約37km(白)、約32km(赤)にまで達する。「灯台の父」と呼ばれたイギリスの土木技術者のリチャード・ヘンリー・ブラントンが設計した「ブラントン灯台」の一つ。

金華山の歴史は古く、8世紀に国で初めて金を産出して朝廷に献じたことから、金華山と呼ばれるようになった。約1200年の歴史を持つ「黄金山神社」の神域

となっており、この神社は江ノ島神社(神奈川県)、巖島神社(広島県)などに並ぶ、弁財天が祀られている「日本五大辯財天」として崇められている。島には黄金山神社をはじめ、8つの神社があり、樹齢数百年の巨木や天然水といった自然のパワースポットが充実している。

この歴史ある島に灯台が建てられたのは北海道や北米と往来する船舶にとって大きな目印となるからだ。北米を出発した船が日本に帰る際に、最初に見える灯台であることから、灯台を見つけると「やっと日本に着いた」と安心感を覚えるそう。

1945年の太平洋戦争中には、連合国軍の標的とされ、アメリカ軍による攻撃を受け、多数の被害が及んだ。2005年には滞在管理が解消され、金華山灯台は無人化となった。

現在は宮城海上保安部が半年ごとのメンテナンスを実施している。1998年には50回目の灯台記念日として、全国投票で選出する「日本の灯台50選」に選ばれたほか、2017年には国の登録有形文化財に登録されている。

なお、東日本大震災により島内道路が崩落しているため、灯台には行くことができない。



灯台からの眺め



# 塩屋崎灯台

福島県いわき市



## 美空ひばりが歌った白亜の大灯台

福島県いわき市には、古来よりアワビ、ウニ、海藻の宝庫として沿岸漁業が盛んな豊間漁港が立地している。この豊かな海の海岸線を突出する塩屋岬に、美空ひばりの歌の舞台となった塩屋崎灯台がある。全国に16基しかない「のぼれる灯台」としても有名で、真っ白な外観で堂々と立つ姿は、多くの観光客を惹きつけている。

塩屋崎灯台はRC造、高さ27.3mで、第3等大型フレネルレンズを設置し、光の強さは44万カンデラで41km先の沖合まで届く。内部は螺旋階段で、登りきると太平洋の水平線と白砂青松の景勝を一望できる。

かつて美空ひばりが、女性の暗く沈んだ心を照らす灯りとして塩屋崎灯台とその海を舞台にした歌謡

曲「みだれ髪」と「塩屋崎」を歌い大ヒット。その由縁で、灯台近辺には88年にみだれ髪の歌碑、90年に遺影碑、2003年にス



豊間の海を見守る灯台

テージで歌唱する姿を彫った「永遠のひばり像」を建立した。遺影碑に近づくとみだれ髪の歌が流れ、今でも歌謡界の女王を慕う多くのファンが訪れている。

灯台の起源をさかのぼると、この近海は岩場が多く海が荒れたときの操船が難しかったことから、平安時代の漁師が現代の灯台と同じ役割である常夜灯を建設したことから始まる。1899年には常夜灯に代わり、当時日本一高いとされた近代的なレンガ造りの初代灯台が完成した。しかし、1938年にマグニチュード7.7の福島県東方沖地震で被災したことから改築を決め、40年に2代目灯台として生まれ変わった。

東日本大震災時は、周辺の薄磯・豊間地区が津波被害を受け、灯台自体もレンズ回転機構などを損傷した。被災後は一時的に仮設灯火で運用し、再点灯までに9カ月を要した。現在は復旧が完了し、苦難を乗り越えたこの灯台は、震災復興のシンボルとして人々の心を照らし続けている。

みだれ髪の歌碑

